

# 幼稚園に於ける所感 の一ふし

和田 倉 子

凡そ世の中に大切なる務は、いろ々でございます  
 が、其の中で最も重要な者は、幼児の保育であ  
 ると思ひます、私は、及ばずながら日々樂しき園  
 で、幼稚園時代の子供の世話をして居りまして、  
 いつも感じます事は、保育者の顔色並に言語が、  
 どれ程幼児にうつるかといふ事です。  
 若し、少しでも、身體の具合わしきとか、又は  
 精神上の不愉快で、氣分のすげれない時は、いく  
 ら自ら注意しても、何となしに顔色に表はるゝ者  
 で、斯かる場合には、幼児の心中に印象をうつし  
 て、自然幼児も常と異なり、不快の色を表はし、  
 従つて動作も不活潑不規律に傾き、其儘に放任し  
 て置く時は、遂には、どこから手を出してよいか  
 随分保育上困難に感ずる事があります、丁度、周  
 圍の空氣が不潔であれば、其の中で育つ子供は、  
 どうしても、不良の影響を受くると同じです。

之に反して常に身神共に健全なる時は、幼児も  
 能く遊び、保育者までも、嬉しく思ひます、之は  
 いろ々の原因もありませんが、多少は、保育者の  
 心身の影響感化を與へて居りませぬかと思ひま  
 す。  
 次には、幼児に對する言語であります、  
 元來子供は、常に周圍の事物について、熾なる好  
 奇心を満足させんとして居ますから、種々の質問  
 をいたします、此時に當つて、極めて正確にして  
 簡易なる言語もて、答へなければ逆もわかりませ  
 ぬ、私は、或所に行きまして、幼児の間に對し、  
 母親が、漢語交りの言葉もて答へ居るのを聞いた  
 事があります、其の時子供は、不思議な顔をし  
 て、繰返し々問ふて居るのを見て感じた事があり  
 ます。  
 因て、幼児保育の任に當る者は、常に、心神を  
 爽快にし、威嚴と共に、柔和にして快活なる容貌  
 と、之に伴なふ言語をも、つゝしむと同時に、幼兒  
 といふ者を深く觀察研究して如何に之を保育すべ  
 きかといふ事をも絶えず考て行かねばなりません。